

幸福度研究に関する調査研究報告書

—総合計画への幸福度指標導入について—

2012年10月

草津市 草津未来研究所

要旨

近年、世界的に「幸福度」に対する関心が高まっており、個人の幸福感を客観的な数値で表すための指標化の研究が盛んである。この動きは、国際機関や国レベルだけにとどまらず、日本国内においては、府県や市区にまで及んでいる。この調査研究は、「幸福度」についての先行研究をレビューし、総合計画に幸福度を導入することについて検討している。

最初に、近年の幸福度研究の背景には、一人当たりの GDP の増加と満足度(幸福度)の乖離、つまり経済成長が必ずしも社会の発展や国民・住民の幸福の増進につながっていないという実感があり、豊かさの代名詞として使用されている GDP は、人間の幸福に影響する項目の一部分しか含んでおらず、きわめて狭い範囲しか評価できない指標であることを指摘している。

次に、幸福が意味するものすべてを完全に表すような唯一の定義はないが、幸福は「客観的幸福」と「主観的幸福」に分けられる。また、幸福の決定要因として、フライとスタツァーが示した5つの要因(①性格、②社会・人口統計上の特性、③経済、④文脈・状況、⑤制度)を紹介している。

幸福度指標の先行研究の事例として、国際機関は OECD と EU、外国の事例はブータンとフランス、国内の事例は、内閣府と福岡県、熊本県、福井県他、京都府、荒川区、新潟市、そして、法政大学と京都大学他を取り上げ概要を整理している。

近年の幸福度の指標化に対する取り組みは、人々の主観的幸福(subjective well-being)に影響を与える要因(項目)を抽出し、その要因に関係する指標を導き出し評価しようとするもので、類型化すると①客観的な指標が主体になっているもの、②主観的な指標が主体になっているもの、③両者を組み合わせたものの3つに分類でき、幸福度に関する項目は、11 から 12 項目に整理できることを示している。

最後に、幸福度指標は、総合計画(基本計画)の施策や事業の達成度を評価するものではなく、総合計画全体の成果について市民の幸福度の変化(満足度)をみるためのものである。つまり、施策評価の指標と幸福度指標は別々に体系化する必要があること、そして、基礎自治体レベルで政策(施策)につながる幸福度指標の策定には十分な議論が必要であると指摘している。

目次

はじめに.....	1
第1章 幸福度の必要性と背景.....	2
1 背景.....	2
2 幸福度と GDP の関係.....	3
3 用語の整理.....	5
第2章 幸福度の定義.....	6
1 幸福とは.....	6
2 幸福の概念.....	7
3 幸福度に影響する要因.....	8
第3章 幸福度研究の先行事例.....	10
1 国際機関の取り組み.....	10
(1) OECD.....	10
(2) EU.....	10
2 諸外国の取り組み.....	11
(1) ブータン.....	11
(2) フランス.....	11
3 日本の取り組み.....	12
(1) 内閣府の試案.....	12
(2) 府県レベルの取り組み.....	15
(3) 市区レベルの取り組み.....	18
(4) その他.....	20
4 小括.....	22
(1) 幸福度指標の類型.....	22
(2) 幸福度指標の項目.....	23
(3) 成果指標と幸福度指標の関係.....	24

第4章 先行事例からの示唆.....	25
1 幸福度指標と総合計画.....	25
2 留意事項.....	26
おわりに.....	28
関係者一覧.....	29
参考文献.....	30
参考資料.....	35

はじめに

近年、世界的に「幸福度」に対する関心が高まっており、個人の幸福感を客観的な数値で表すための指標化の研究が盛んである。この動きは、国際機関や国レベルだけにとどまらず、日本国内においては、府県や市区にまで及んでいる。

しかし、そもそも「幸福」とは何か定まった定義はない。このあいまいな概念について、明確な因果関係を持つ指標を示すことが可能なのか、さらにより基本的なこととして、きわめて個人的な感情である幸福について、政府が指標を規定することが正しいことなのか、さらには幸福を政府の目標とすることが適当であるかについて論点が存在する。

草津市においても、幸福度についての関心が寄せられ、第5次草津市総合計画の第2期基本計画の策定時期であることから、総合計画の達成度を測る「施策評価指標」に幸福度指標を参考にできないかという問題意識が生じている。また、施策評価指標は施策の成果を見る「成果指標」であるべきであるが、施策の成果を測ることの困難さや測定のためのコストから、施策評価指標が「活動指標」になってしまっている。

このことから、この調査研究は、現在までに取り組みされてきた幸福度の先行研究をレビューし、幸福度に影響する要因として何があり、現在どのような幸福度指標が作成されているのかについて調査し、総合計画(第2期基本計画)に幸福度を導入することの可能性を探ろうとするものである。先行研究の多くは経済学や心理学を中心にしたものであるが、この調査研究は総合計画との関係について検討するものである。

この調査報告書の構成は、第1章で、近年盛んになった幸福度研究の背景について整理し、第2章では「幸福」の定義について整理し、「幸福度」の決定要因について検討している。さらに、第3章では先行研究の結果について概要をまとめ、続く第4章で、総合計画の成果指標と幸福度指標の特性の違いを明らかにし、幸福度指標の策定には十分な議論が必要であることを指摘している。